

VIVID LETTER

作業療法と高次脳機能障害	1
VIVID 活動レポート	2
VIVID 事業カレンダー	3
ひとこと通信	3
家族会・ボランティアの声	4
お知らせ	4

なんでも相談
毎週木曜日
午後1時から3時
専用電話
03-6380
-2015

“VIVID”は高次
脳機能障害者の
社会参加を支援
する特定非営利
活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ)
〒160-0021
新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601
TEL&FAX 03-5849-4831
Eメール hbd-vivid@coast.ocn.ne.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>

作業療法と高次脳機能障害

東京慈恵会医科大学附属第三病院

作業療法士 石川 篤

皆さんは作業療法をご存知でしょうか？

病院や施設、また地域で実際に作業療法を受けた方もいらっしゃるかと思います。作業療法についてどのようなイメージを持ったのでしょうか？今回は、VIVIDさんより貴重な機会を頂きましたので、作業療法と高次脳機能障害について少しお話しさせていただきたいと思います。



ここで作業療法について簡単にご紹介させていただきます。作業療法は、リハビリテーションを行う専門職のひとつです。作業療法とは、「身体または精神に障害のある者、またはそれが予測される者に対してその主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復・維持および開発を促す作業活動を用いて行う治療、訓練、指導および援助すること」を言います。(社団法人日本作業療法士協会)我々作業療法士は、各対象者に合った作業活動を用いてアプローチを行います。ここで言う「作業」とは、皮細工や籐細工、銅版細工などのActivityのみを指すものではありません。我々作業療法士が対象とする「作業」とは、その対象者の生活を構成するすべての活動(日常生活活動・仕事・遊びなど)、またその対象者にとって意味のある活動を指します。そのため「作業」は、対象者によって全く異なるものとなります。

作業療法の大きな特徴の一つは、背景因子をも捉える「視野の広さ」です。医学的な解剖・生理・運動学などの知識

をもって臨むのはもちろんのこと、日常生活動作のやり方や家屋環境、その方の性格や価値観、さらには生活歴までと実に幅広い視野を持って対象者の支援に当たります。活躍の場も、病院から地域までと広域に渡り、また対象も小児から老年までを対象とします。

ここで背景因子について少し説明します。背景因子とは、国際生活機能分類(ICF)の環境因子と個人因子のことを指します。環境因子には、対象者を取り巻く人的環境と物的環境などが含まれます。人的環境となる対象者を支える家族や友人、同僚などの有無や受け入れ状況、また物的環境となる自宅や職場の環境、加えて社会資源なども視野に入れ対象者を支援していきます。個人因子には、対象者の性格や価値観、生活歴などが含まれ、どのように物事に対処するかなどの問題解決能力や心理的資質なども含まれます。我々はこれら背景因子をしっかりと捉え、さらに必要に応じて流動的に調整することで治療を行う点が大きな特徴と言えます。

高次脳機能障害の特徴のひとつとして、環境に影響されやすい点が挙げられます。たとえば、入院生活は刺激が少なく、加えて対応に慣れたスタッフにより、問題行動が見られなかった方でも、地域生活が開始されると同時に、多くの刺激を処理しきれず、また対応に不慣れた周囲の人々に混乱し、不適切な行動が引き出されてしまうといった経験をします。そのような場合、作業療法ではその方の生活環境における人的環境と物的環境を評価し、能力が発揮しやすい環境の調整を行います。周囲の方に障害の理解と対応法を伝えたり、混乱しないようにスケジュール帳を作成したり、安心して生活できるような環境づくりを心がけます。作業療法における低下した機能面の改善や代償手段の(2面につづく)

(1面より)

獲得に加え、特に高次脳機能障害の支援では、私は、環境因子や個人因子、つまり背景因子の調整が最も重要だと考えています。その点からも作業療法の「視野の広さ」は、高次脳機能障害の方の支援をする上で有用な部分が多くあると感じています。

今回は、作業療法と高次脳機能障害についてお話しさせていただきました。高次脳機能障害は、「見えない障害」と

言われ、また長期的な経過をたどるため、支援が難渋するケースもあります。その中で、作業療法士として何ができるのか？日々試行錯誤を繰り返しながら臨床を行っています。高次脳機能障害のリハビリテーションの目標は、「生活障害の軽減」だと考えています。作業療法士の視点をもって、対象者のもつ「前へ」という気持ちに答えていきたいと思っています。

VIVID 活動レポート

在宅生活でのリハビリテーション セミナー開催しました

研修事業の一環として、例年高次脳機能障害者支援セミナーを実施しています。今年度の一回目は専門職、支援者を対象に、7月19日(土)13時30分から、新宿区戸塚地域センターで行いました。

全体のテーマは「高次脳機能障害者の在宅生活でのリハビリテーション」とし、前半、後半に分け、それぞれ講師をお迎えし、講演いただきました。

前半の講演1は、「高次脳機能障害に対する在宅でのリハビリテーション」、講師は中島恵子氏(帝京平成大学大学院臨床心理学研究科教授)。初めに本日のお話のポイントとして、1) リハビリ目的の明確化 2) 家族の役割 3) 動機づけ 4) 方法 5) 環境 6) 身体を動かす 7) 決まった事をする 8) 楽しむ 9) 相談する などを明確化し、一つひとつ具体的な取り組みの事例など話されました。

例えば一日のスケジュール表を目につきやすい場所に貼り、自分で確認、チェックできるようにする。そのような環境を整えることが大事であると。また、何より楽しんで興味をもってすること。そして、相談することであると。

後半の講演2は「高次脳機能障害のリハビリテーション～背景因子に注目して～」、講師は石川篤氏(東京慈恵会医科大学附属第三病院 作業療法士)。

内容は、大きくは1 高次脳機能障害の特徴 2 背景因子とは 3 環境因子とは 4 個人因子とは 5 症例提示 でした。

高次脳機能障害の場合、環境に影響されやすいという特徴があり、同じ障害であっても「症状」は異なる。そのため特に背景因子に注目する必要があると。そして、石川氏の経験した症例から実例をいくつ



か示し、当事者を取り巻く人的環境と物的環境を実際に見ることが大切であることを学びました。

なお、当紙面トップに石川氏の「作業療法と高次脳機能障害者」を掲載しました。合わせてご覧ください。

今年度のセミナーは、11月15日(土)、第二回目のセミナーを予定しています。詳細は企画中ですが、テーマは(仮)「高次脳機能障害の回復と社会参加」講師は長谷川幹氏(三軒茶屋リハビリテーションクリニック院長)、事例発表も予定しています。

今年も晴れやかに ミニデイ発表会

ミニデイの発表会も今年で4回目、音楽、リーディング劇、みんなのアルバムなどバラエティーに富んだプログラムで楽しみました。

2014年3月22日(土)いつもの時間よりやや早めの10時半集合、本番は午後1時から開始しました。オープニングは例年参加の三人のグループによる、南米フォルクローレ音楽の演奏。この日のメインは利用者によるリーディング劇です。これまで3回行い、4回目の今年は「聞き耳頭巾」を発表しました。以前は朗読劇でしたが、「演じる」ことへステップアップし、リーディング劇としました。

今年は最初から全員が舞台上に登場、一人ひとりの個性で役を演じ、プロセスを大切にしながら、みんなで一つのものに仕上げました。

休憩時間は、利用者ご家族の手作りおはぎをいただき、後半は「みんなのアルバム」で、各人が写真にまつわるお話を披露しました。

締めくくりは、ミニ音楽会で、ピアノ、合唱、会場の見学者の方々と一緒にオリジナルソング「幸せの予感」を歌い、楽しい一日を過ごしました。

当日は、いつものメンバー以外に見学者が25名、ボランティア5名の方が来てくださり、大変に賑やかな雰囲気でした。



VIVID 事業カレンダー

活動実績

※専門相談員によるなんでも相談
(電話) 毎週木曜日

- 2月** 2日 春の音コンサート
4日 エコメッセへのヒヤリング
8日 港区・講演会・医療家族相談交流会
8日 ミニデイサービス (大雪で中止)
9日 家族会 (料理)
12日 新宿区相談支援窓口連絡会
12日 ケアカンファレンス
18日 東京都相談支援員研修
19日 新宿区障害者相談窓口連絡会
22日 ミニデイサービス
- 3月** 8・15・
22・29日 ミニデイサービス
13日 新宿区精神障害者関係機関事業所連絡会
14日 中野区高次脳機能障害啓発区民講演会
17日 ケアカンファレンス
- 4月** 12・26日 ミニデイサービス
- 5月** 6日 家族会 (料理)
9日 VIVID 理事会
10・24日 ミニデイサービス
18日 第1回 TTK 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会

- 6月** 4日 東京都高次脳機能障害支援区市町村促進事業連絡会
7日 2014年度 NPO 法人 VIVID 第7回総会
14・28日 ミニデイサービス
15日 TTK2014年度理事会総会
22日 第1回ピアサポート研修会
25日 新宿区障害者相談支援窓口連絡会
- 7月** 12・26日 ミニデイサービス
17日 かざぐるまカフェ「高次脳機能障害について」
19日 セミナー「高次脳機能障害者の在宅生活でのリハビリテーション」
講師：中島恵子氏・石川篤氏
30日 サービス関係者カンファレンス
31日 VIVID LETTER13号発行

今後の主な予定

- 8月～** 高次脳機能障害 なんでも相談
電話相談 (月～金 10～17時)
面接相談
(毎週木曜日・第2・4土曜日 13～15時)
- 1月** ミニデイサービス 第2・第4土曜日
セミナー 11月15日

高次脳機能障害と当事者活動

中野区高次脳機能障害啓発区民講演会

高次脳機能障害の理解と支援については、東京都はじめ各自治体で取り組みが始まって以来、少しずつ理解されてきました。地域で生活していくためには、当事者やご家族の自主的な活動も大きな課題です。新宿区の隣り、中野区では、当事者活動に焦点を絞り、3月14日、13時から中野区障害者福祉会館で講演会を開催しました。

第1部では芦刈伊世子医師の「高次脳機能障害 地域での診療を通して」の講演がありました。第2部では「家

族会の設立とこれから」として、新宿高次脳機能者友の会 太田三枝子さんから、家族としての活動状況や思いなどの話がありました。また、VIVIDから、新宿区の家族会の立ち上げのきっかけとして、ミニデイで実施している家族プログラムの例などの話をし、今後の課題として、会員の広がり、継続と活性化、また、行政などへの働きかけが重要である事など話しました。

ひとこと通信

社会復帰

小脳梗塞になって3年、発症当時、気づいたら病院のベッドの上であった。2ヵ月くらい眠っていた。

小脳梗塞だから運動機能は駄目である。走ること、ジャンプすることが苦手である。しかも構音障害で歌も歌えない。いわゆるポンコツである。

でも命は助かったし、言葉を失わずに済んだ。思えば41歳の時、厄年で倒れた感じだ。

残された人生どうするか？それが問題になってくる。

自分の趣味は散歩である。だが、まだ一人で歩いている。いない。

社会復帰には色々とハードルがある。まず一人で電車バスにのれることだし上司の言っている事を理解し覚え

ミニデイ利用者の投稿

ることが第一に考えられる。実は短期記憶がダメでトランプの神経衰弱が苦手である。あと病気の前から空気を読むのが苦手である。集団行動も苦手、数字が苦手、人のことが解らず、まあ良くない事はこんな感じである。

逆にいいことはないのか？

得意はパソコン、英会話、散歩が趣味なので色々な所を知ってる。保険屋だったので損害保険特級、生命保険大学(生命保険業界の共通教育制度)の資格はある。でもこれが社会復帰に使えるか疑問である。

社会復帰には出会いが肝心である。どういう人が上に就くか大事である。まず雇ってくれるのが先決である。

(中野区在住 田中策士)

目的と課題

新宿区高次脳機能障害者友の会(以下友の会という)は平成23年9月頃にNPO法人VIVIDが行っているミニデイ参加者で新宿区内居住者らが中心となり発足しました。設立の目的は今まで個人で行政の障害福祉課等と接していた事を団体で行う事、及び新宿区にある新宿区障害者団体連絡協議会(以下障団連)に加入し皆様といっしょに活動していく事を目的としました。なお障団連には知的障害、視覚障害、精神障害等約20の団体が加入しています。

平成24年4月1日を正式な発足の日として、新宿区の障害者支援計画に対して要望書等の提出、提言、障害者からの相談受付、障団連の月1回行われている会議への参加、区議会議員との懇談、提言又は新宿区障害者センター祭への参加。年6回の障害者による料理教室の開催等を行ってまいりました。

新宿区内には約1000人の高次脳機能障害者がいるといわれておりますが、この方たちをいかにして友の会に参加していただけるか、その方法を考え、また相談窓口の充実等が今後の課題と考えております。

お陰様で平成25年からは新宿区障害者福祉センターよりピアカウンセラー(相談)謝礼もいただいております。又、26年度の障団連活動方針の中に高次脳機能障害者が毎日通うことができる日中活動の場を設けて下さいという提言が盛りこまれました。

この障害は他の障害と比べて認知度が低かったため知らない方が多かったようですが、少しずつ知られるようになってきたと思われれます。今後共皆様のご協力をお願いします。

新宿区高次脳機能障害者友の会(名・アンサンブル)
会長 高田 健三

第7回総会開催終了

6月7日(土)午後2時から、NPO法人VIVIDの第7回総会をVIVID事務所で開催しました。議長に北村とし子氏、副議長に源甲斐照美氏を選任、議長より議事録署名人の選出を諮り議事に入りました。今期は役員の任期が終了する年で、第5号議案として役員(理事・監事)の選出があり、一部役員が変わりました。その他、第1号議案として2013年度事業活動報告、第2号議案2013年度決算報告、第3号議案2014年度活動計画(案)第4号議案2014年度予算(案)を審議しました。

新年度の活動計画案では、これまで通りの事業のほか、新規に第2次中期計画の策定を提案しました。議案はすべて了承され終了し、新年度に向けて新たにスタートすることができました。

ボランティアの声

私は、学生時代に、高次脳機能障害の分野に関心を持ち、そこから御縁があり、VIVIDでボランティアとして、約2年間お世話になっています。

ここでの2年間で私は、スタッフの方々や利用者の方々と接して、いろいろな体験や経験をさせていただき、非常にありがたいと感じています。このVIVIDという場所は、みなさんが和気あいあいとしているところが特徴であり、一番の良さではないかと感じています。こういった雰囲気だからこそ利用者の方々から、「日々の訓練で疲れているけど、VIVIDに来ると気持ちが落ち着く」、「ここに来て本当によかった」と言うことをよく耳にします。このような利用者さんの正直な気持ちや、本当に必要としている関わり方など今までの私の経験では知り得なかったことを学び、この分野により関心をいただきました。

私は今後、VIVIDでの経験を生かし、高次脳機能の方々と関わるお仕事をしていきたいと考えています。

(帝京平成大学大学院生・赤松俊太)



VIVIDからのお願い

<http://www.vivid.or.jp>

年会費

会員 個人 5,000円 団体 10,000円

賛助会員 個人 5,000円 団体 10,000円

寄付 金額に規定はありません

当広報紙をお読みになった感想、活動にたいするご要望、ご質問等お寄せください。

TEL・FAX 03-5849-4831

編集後記

昨年の夏、家族会「サークルエコー」田辺さんのご紹介で、所沢の国立リハビリテーションセンターの今橋さんがVIVIDミニデイを見学された。その秋、国リハで、地域の支援機関の職員を対象とする研修会で、ミニデイの内容を発表する機会をいただいた。そして今年の5月、TKK主催の「高次脳機能障害実践的アプローチ講習会」初日、冒頭の中村八十一先生の講義で、利用者と家族のプログラムが運動する「大人になること」などを、地域での支援の例として取り上げられた。さらにこの秋、港区高次脳機能障害理解促進事業の講座で、ミニデイでの支援を話す予定となった。

利用者の皆さんが、数年の付き合いの中から、どんなことでも安心して話せる居場所をつくりだしている。誰かが卒業し少しずつ入れ替わりながらも、この場が続いていくことを支えるのは私たちスタッフの仕事なのだ、実感している。(い)